

パンジーメディア作品

おおぞら

大空へはばたこう

じりつ ちょうせん
～自立への挑戦～

取材をすすめる中で、
入所施設はなくすべきだと
強く思いました。
「ぼくたちは、一人の人間として
地域で自分らしく生きる」

2024年6月30日(日)

13:00開場 / 13:30開演

会場: 北翔大学 札幌円山キャンパス

料金: 一般1500円 / 手帳割引: 1000円

主催: 映画「大空へはばたこう」から入所施設について
考える実行委員会 / DPI北海道ブロック会議

お問い合わせ: 事務局 / NPO法人共生舎内

Tel・Fax: 011-721-5705

e-mail: kyouseisya@be.wakwak.com

同じ知的障害のある仲間にも、
入所施設から出て自由に生きてほしい。

後援: 北海道、札幌市、ピープルファースト北海道、北風の会、札幌みんなの会、パンジーメディア、インク

ルネットほっかいどう、札幌いちご会、北海道手をつなぐ育成会、札幌市手をつなぐ育成会(予定)

かいさいしゅし
 <開催趣旨>

2022年から2024年にかけて、入所施設の虐待やグループホームでの不妊処置の問題などが北海道で公になりました。地元、北海道でなぜこんなにも多いのか…とても残念です。これまでも知的障害のある当事者が「入所施設で死にたくない」、「地域で暮らすために24時間の公的介護が必要だ」という声を裁判で訴え続けたことで少しずつ共生社会を目指す流れになってきています。しかし、北海道は日本一入所施設と入所者の数が多いままです。私たちは、管理される入所施設ではなく、“自分らしくいきいき・のびのび・ゆうゆう”と生きたいです。そのため、この映画上映をしようと考えました。この映画は、大阪の社会福祉法人 創思苑で運営しているインターネット放送局「パンジーメディア」が障害のある当事者自らの取材や経験を元に作成したものです。日本に入所施設ができた背景、今、世界の入所施設の現状はどうなっているのか、親元や入所施設から地域へ移行する当事者の様子やそれを見守る家族や支援者の想いも描かれています。「入所施設」を通して、障害があってもなくても一人の人間として共生社会について全道の人たちと考えていきましょう。



入所施設の職員 や 親、いろいろな人にみてもらいたい。 実行委員長 松岡 敏雄

当事者の表情が答えになっていると感じた。 元施設長 石田 力

いろいろな立場の人が出て、問いかけている映画だ。 NPO法人管理者 藤本 一貴

バリアフリー字幕・音声ガイドが必要な方は、事前準備が必要
 なため、事前にお知らせください。
 手話通訳・要約筆記は、シンポジウムや進行の時あります。



会場への行き方
 地下鉄 東西線
 西18丁目 2番出口
 から丸山方面へ
 真っすぐ歩いて5分